講座【B】保育現場で学ぶ編　【第１回】幼稚園の保育環境・幼稚園教諭の一日

１．幼稚園の保育環境

～3 歳児の保育環境～

ハサミや廃材等、自分たちで自由に取り出し、使えるようにしておきます。（ハサミについては、一人一人の使い方を確認した上で出していきます。）

自分でやりたことを決めて、それが展開できるようにということを保育者は心掛けています。子どもが興味を持ちやすいような素材・材料を用意しておきます。

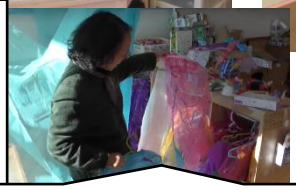
年中・年長児の“回転ずしごっこ”を、自分たちで。年齢を超えたかかわりも大切にしています。

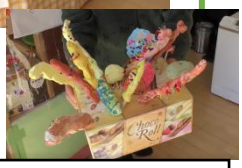
どの学年においても、必要に応じて、保育者が提案していくことも大事です。

～4 歳児の保育環境～

どの学年も、自分たちの保育室で生き物を育てるということも大事にしています。

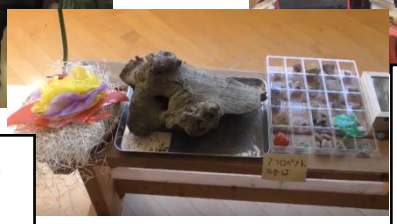
廊下のスペースを使って、クラス関係なく、作りたい子どもが集まって、基地や海賊船などを作っていきます。廊下は、クラスを越え、気の合う友だちと、自分たちのイメージが実現できる貴重な空間になります。積み木は、ウレタンカラー積み木から、中型の木製の積み木へと（年長児は大型の木製積み木）段階を追って、大きさや材質を変えていきます。





数字や文字への興味関心も出てくる 4 歳児期。ごっこ遊びの看板やお金作り等にも多く登場します。また、使う材料や素材もより高度になっていきます。

～５歳児の保育環境～



自分たちで園生活を進めていくという自覚、自信がもてるように。グループでの当番表や、一日のスケジュールボードが準備されています。

仲間と一つのことを作り上げていくという達成感が味わえるように。より、本物らしさを追求できるよう様々な材料を、子どもと共に考えていきます。

～園庭の保育環境～

アスレチック。一つの遊具の中で、色々な運動的な能力が伸びるように作られています。その他、四輪バイクやリヤカー、ボール等も自由に使用できるようになっています。

片づけやすいように、又、次の日も続きが出来るように棚が工夫されて使われます。

築山やツリーハウスで、ままごとをしたり、水を流して遊んだりする等、色々な遊びが展開されていきます。砂場は、大・小、二つあり、分かれていることによってダイナミックな遊び、ごちそう作り等落ち着いて取り組む遊びが同時に行えます。

季節を感じられるように、桜や紫陽花、イチョウの木、またジュンベリーや夏みかん等、実のなる木もたくさんあります。

2．幼稚園教諭の一日

9：00～9：20　登園：まずは、登園する園児の視診から始まります。直接登園する子どもについては、保護者の方から、バス乗車の子どもは、バスに添乗した先生より、前日の様子、健康状態等を聞きます。

9：20～10：50　主体的な遊び：制服から遊び着に着替え、好きな遊びを見つけて活動していく、主体的な遊びの時間となります。保育者は、子ども一人一人の興味・関心に応じて、遊びを提案したり、一緒に遊ぶ中で、励ましたり、認めたりしながら、子どもたち一人一人、そして集団の育ちを支えていきます。

10：50　片付け：どの子どもも意欲的に取り組んでいけるように、自分たちで使ったものを、自分たちで片づける、保育者に言われたから片付けるのではなく、自分たちで生活している場を、自分たちで整えていくという気持ちが育つよう支えていくことを大事にしています。

11：00～11：30　皆で一緒に取り組む活動：クラスの仲間や学年のみんなと一緒に絵を描いたり、製作をしたり、ゲームやわらべ歌遊びを行ったり、様々な経験・体験が、その後の遊びや生活に繋がっていくように、保育者から様々な活動を提案していきます。

11：30　お弁当：幼稚部では、お家の方の手作りのお弁当を頂きます。今はコロナ禍ということで、黙食となっていますが、友だちと会話を楽しみながら、楽しい雰囲気の中で食事ができるようにということを大切にしています。

12：00～13：10　主体的な遊び
13：10　片付け・着替え・帰りの集い：帰りの集いの時間には、先生による絵本の読み聞かせを聞いたり、一日の振り返りをみんなで行ったりなどして過ごします。

14：00　降園：保育者は、保護者の方一人ひとりに子どもの今日の様子を伝えます。園バスの子どもには、必要に応じて電話にて連絡をします。また、預かり保育担当の保育者にも引き継ぎをします。

園児が降園したら、そこで幼稚園教諭の一日は終わりではありません。清掃をしたり、明日の環境の準備をし、その日の子どもたちの様子を他の先生たちと共有をしたりします。保育の質を高めていくための園内研修や事務作業も計画的に行っていきます。

３．森本園長先生へインタビュー

Q.保育者としてのやりがいとは・・・

A. 保育というのは、こうでなければならないという、正解がないと思います。その子どもによって、対応も違ってきますし、正解がないゆえに自分で考えて、その場その場で、子どもたちと向き合いながら、こうするかな、ああするかな、と考えながらやっていきます。それ故時には、それが苦しく感じるということもありますが、しかし、振り返ってみると、ここまで長く続けてこられたのは、やはり、子どもが伸びていく、子どもの力ってすごいなと感じさせられる、そういった出来事に直接向き合えることが出来たからだと思います。その度に、この仕事っていいなあとやりがいを感じてきました。

Q.現在の状況の中で保育者として求められることは･･･

A. 今、AI の時代になってきて、人間と人間のかかわりが、本当に少なくなってきています。更に、コロナ禍ということで、なおのこと直接話す機会がないということが出てきています。このような時代になってきたからこそ、人と人とがかかわっていく仕事は非常に大事だと思います。心理学の面からも、脳科学の面からも、人間が幸せだと心から感じられるというのは、やはり人とのかかわりから得られたものだということがはっきりしてきています。幸せホルモンというオキシトシンも、人にギュッとしてもらったり、安心感があったり、そういう時に出てきます。そのことから考えても、やはり、人間が幸せに生きていくためには、人と人とのかかわりは欠かせないものです。保育は、そこをベースにした仕事です。人とかかわることは確かに大変であり、面倒なこともあって、嫌な思いをする、傷ついたりするということもあるかと思いますが、それでも「人とかかわるっていいなあ、生きていくって楽しいことだな」といった喜びを小さい時に味わった子どもは、絶対幸せに生きていけると思います。そのような経験を小さい時に私はたくさん味わわせてあげたいと思います。本来は親子の間でも味わってほしいと思います。それが、最近は、母と子どもの間でもなくなってきている、なくなってきているどころか虐待という問題、実は隠れた虐待がかなり存在するといわれています。それは何故かというと、母自身も幸せを得られていない、安心感を得られていない、孤独の中で子育てをしている、そういう問題が一杯あるので、虐待は母だけの責任ではもちろんないのです。このような中、子どもはたとえ親から愛されるという経験がなくとも、誰かに愛してもらえたら、それでも生きていけるといわれています。ですから今は、そういう役割を我々保育者には、ものすごく求められているのです。完璧でなくていいと思います。人間ですので、こちらも疲れていたりして、十分なことができなかったりすることもあります。“愛そうとしてくれているという気持ち”というのは、子どもにはきちんと伝わるので、そういう気持ちで接していく。そして、母の苦しさ、辛さに「そうか、お母さんも大変なんだよね」と言ってあげられる人がいると、母も子育てをもう少し頑張ってみようかという気持ちになります。ですから保育者には、そういう役割を是非担っていってほしいと思います。また、そのようにしていくことで、子どもからは幸せや喜びをたくさんもらいますので、自分自身も結果的に幸せに、心豊かになります。できる形で構わないので、保育という仕事に是非、携わっていってほしいなと強く思います。